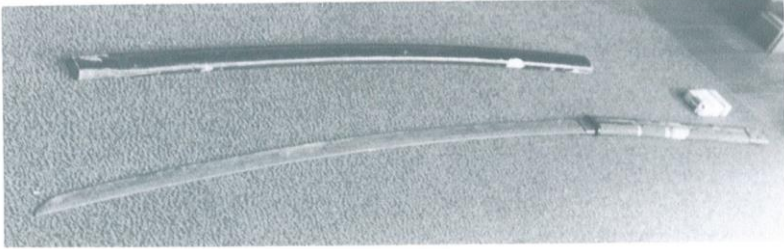


●シリーズ●わがまちの文化財へ39

町指定重要文化財

太刀(伝平教溢奉納 井原八幡神社)

昭和59年5月15日指定



江戸時代末に書かれた「備後古跡志」に世羅町小谷に伝わる平家伝説が載っています。これによると、寿永四年・元暦二年(一一八五)年の屋島の戦いに敗れた平家の武将、刑部卿平教溢が六人の家臣とともに現在の兵庫県の室津に流れ着き、そこから陸路備後国に入り、平家領であった大田庄の一角である小谷に逃れて来たというものです。

この太刀が納められている井原神社の記録には「野太刀」として、前述の平教溢が小谷村へ着いた年に奉納したと伝えていますが、

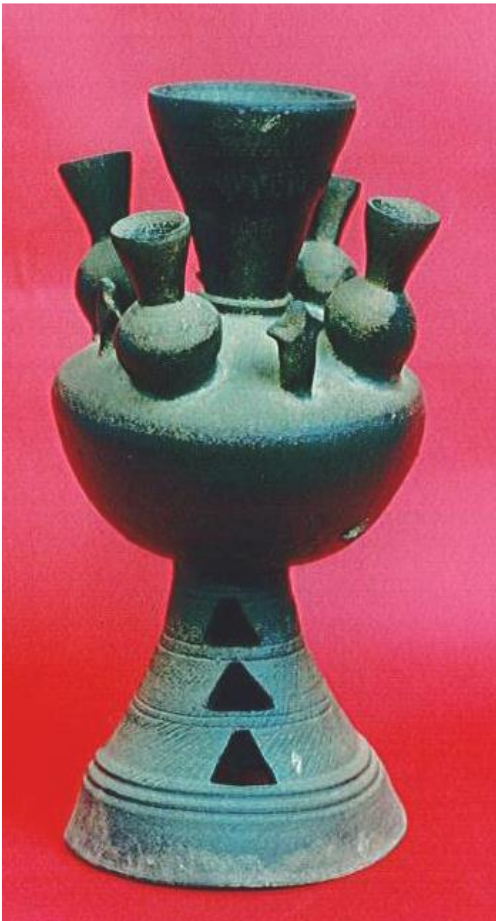
錆身のため地刃の状態は不明ですが、刃渡り94cm、全長139.5cm。刃渡り三尺(約93cm)を越す太刀として町内唯一のもので、太刀は南北朝時代から室町時代の初めのころと推定されています。また、付属の拵(かたなごや)である黒塗(くろぬり)刀拵(かたなごや)は後世の江戸時代のもので、鞘(かたなごや)を新調しながら大切にされてきたことがわかります。

●シリーズ●わがまちの文化財へ41

町指定重要文化財 装飾須惠器

(神岡第四号古墳出土)

昭和55年6月16日指定



この須惠器は、高さ約50センチメートルで、重永の神岡古墳から他の須惠器とともに出土したものです。

壺などの肩や突帯に、動物、人物、小さな器などを付けるといった装飾を持つ須惠器のことを装飾須惠器と呼びますが、広島県内ではこれまでに芦田川流域や、江の川支流の馬洗川水系に沿って、世羅台地を中心に出土しています。

この資料は台付きの須惠器で、この古墳からは他に装飾高坏などが発見されています。装飾須惠器は神岡第四号古墳以外にも町内の数カ所(東神崎・重永・賀茂)から破片が発見されています。